

Jミルクが2022年6月3日に公表した「需給見通し(※2022年4月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《脱脂粉乳の在庫量は10万トンを超過～需要の底上げが喫緊の課題～》

・4月の需給実績について、年度当初より都府県の生乳生産量が前年を下回っている一方で北海道では堅調に推移しており、全国では前年を上回る生産量となった。ただ、生産量の伸び率は縮小傾向にあり、全国的に取り組んでいる生産抑制の効果が伺える。飲用等向は100.2%と前年並みとなり、乳製品向は104.3%と前年を上回った結果、脱脂粉乳・バター生産量は増加し、両品目ともに推定出回り量は昨年よりも増加したものの、月末在庫量は前月よりも増加した。特に脱脂粉乳は在庫量10万トンを超える非常に高い水準となっている。

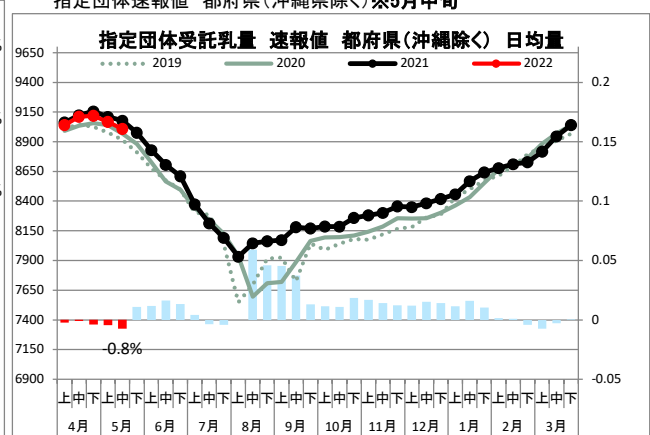
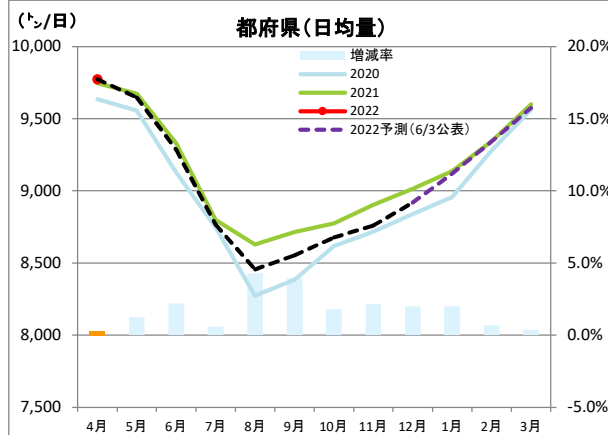
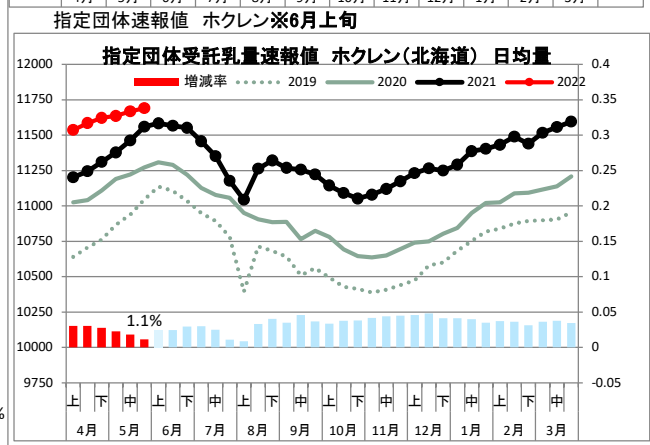
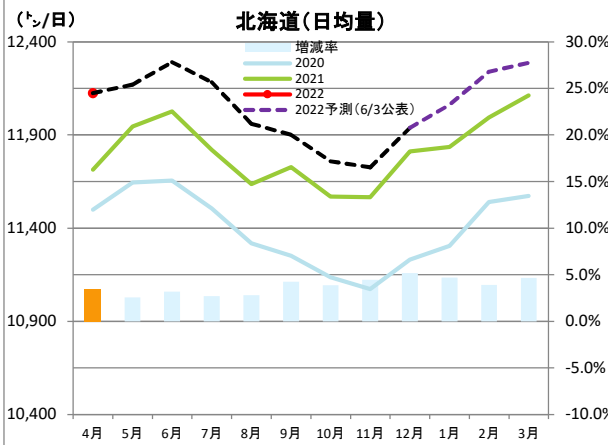
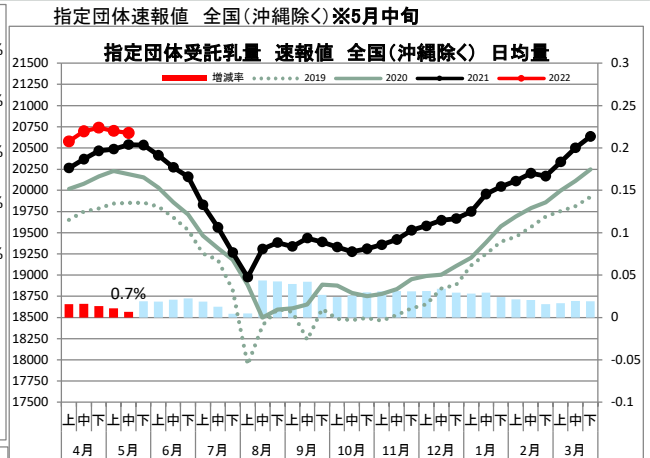
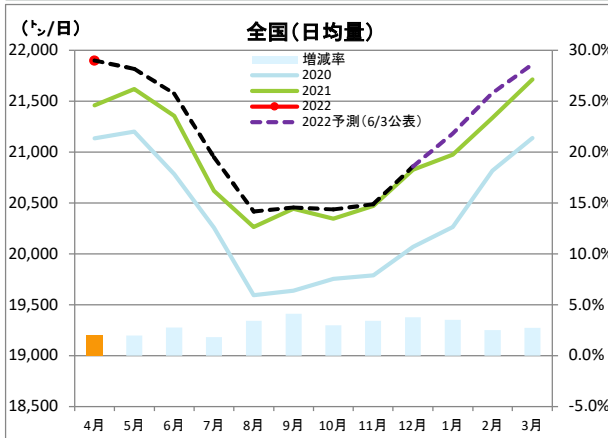
・5月の牛乳販売動向(インテージSR+実績:前年比93.0%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):98.8%)については、統計が高めに出る傾向を踏まえると予測値前後で推移している可能性が考えられる。直近5/30週の牛乳類の販売個数は94.3%と前年を下回って推移しており、コロナ禍前の19年度比でも95.2%と低調な水準となっている。店舗業態別に着目すると前月に引き続きドラッグストアの販売個数シェアがさらに増加しており、消費者の購買行動に変化がみられる。ヨーグルト類は前年並み～微増傾向、特にドリンクタイプは徐々に販売個数が増加している。

・コロナ禍による制限措置の解除以降、人出は増加傾向となっており、また観光支援策やインバウンドの受入再開が始まると業務用需要の回復やさらなる増加に大きな期待感がある。一方で、20年ぶりの円安水準、原材料高等による食料品の値上げや燃料費の高騰から家計消費への負担が重くのしかかる中で、家庭内消費において健康栄養価値のみならず、経済性にも優れていることを訴求し、国産牛乳乳製品の需要の底上げを一層取り進めることが必要となる。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

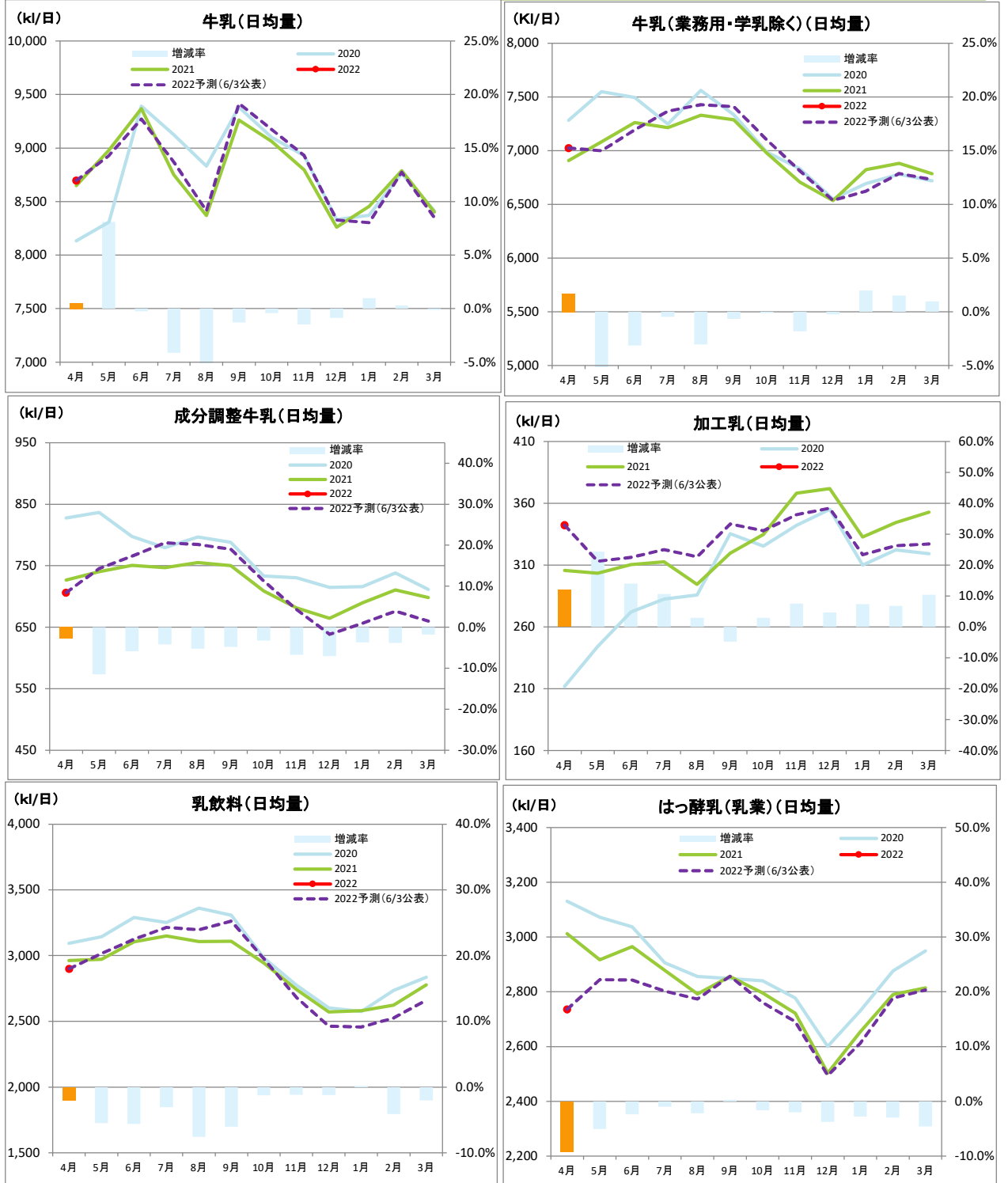
(1)4月の生乳生産量は、全国657千トン(前年同月比102.0%)、北海道364千トン(同103.5%)、都府県293千トン(同100.3%)。

(2)直近の指定団体速報値は5月中旬で全国が同100.7%、都府県(沖縄除く)が同99.2%、北海道は5月下旬で101.1%となっている。



【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1) 4月の牛乳等生産量は、牛乳261千kl(前年同月比100.5%)、成分調整牛乳21千kl(同97.2%)、加工乳10千kl(同112.0%)、乳飲料87千kl(同97.9%)となり、牛乳類合計では379千kl(同100.0%)となった。
- (2) 「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同101.7%、「業務用」は同97.0%、「学乳」は同95.0%。
- (3) はっ酵乳(乳業)は82千kl(同90.8%)と前年を下回って推移している。
また、非乳業実績(3月)については、同104.7%と前年を上回っている。

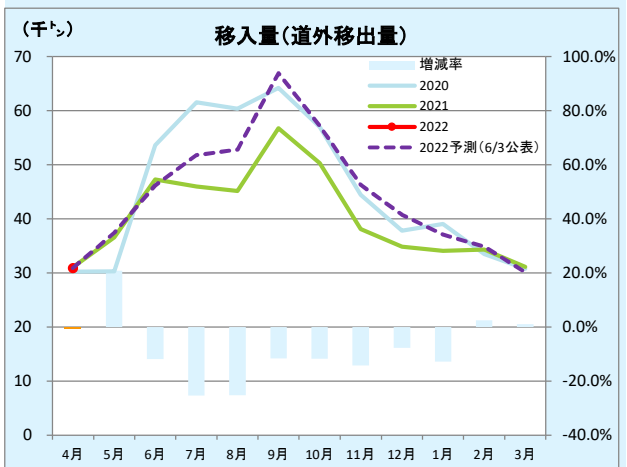
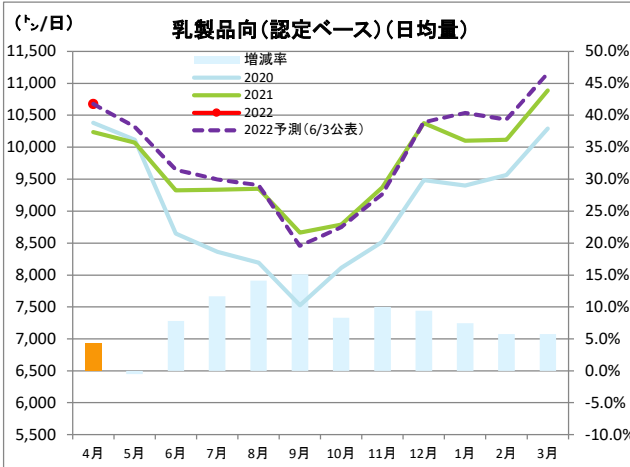
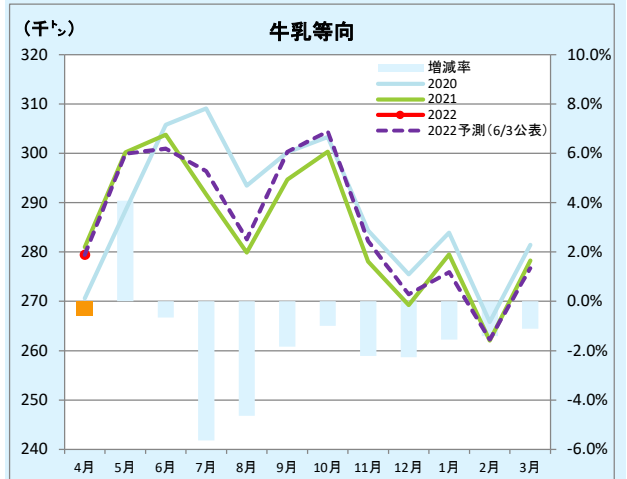
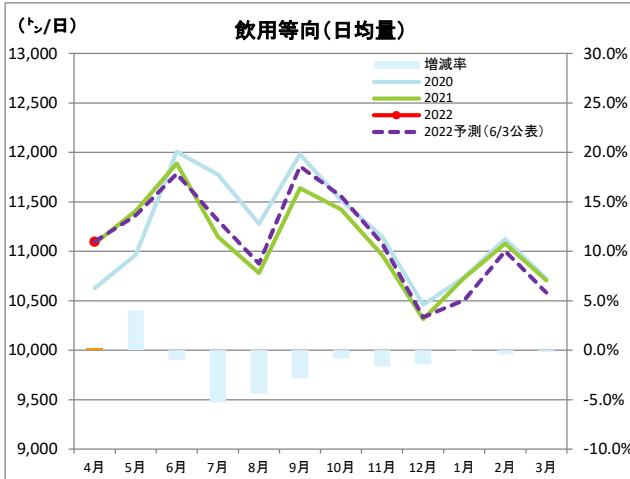
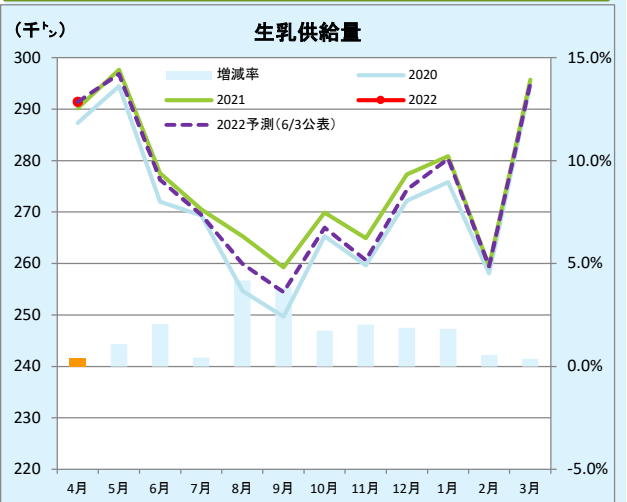
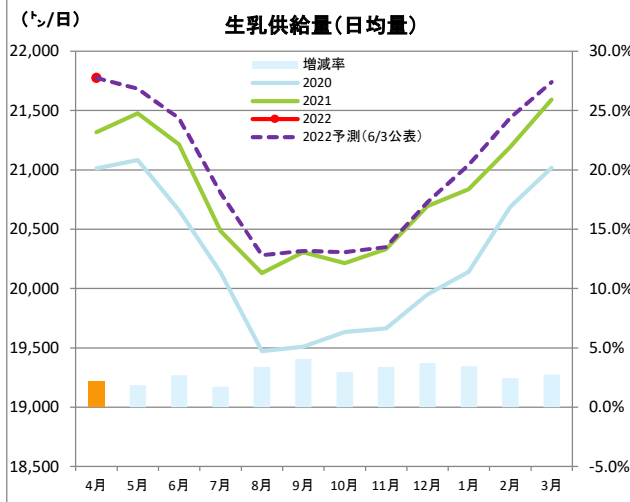


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)4月の生乳供給量は653千ト(前年同月比102.2%)、飲用等向333千ト(同100.2%)、乳製品向(認定ベース)320千ト(同104.3%)。
 (2)飲用等向は前年並みで推移し、生乳供給量が増加した分、乳製品向は前年を上回った。

【都府県の生乳需給】

(1)4月は、生乳供給量291千ト(前年同月比100.4%)、牛乳等向279千ト(同99.4%)。
 (2)北海道からの移入量について、30.9千ト(同99.6%)と前年をやや下回った。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)5月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比92.7%、成分調整牛乳:同95.1%、加工乳:同97.2%、乳飲料:同92.6%。
牛乳類では同93.0%

【参考】2020年度比…牛乳:83.1%、成分調整牛乳:83.4%、加工乳:84.3%、乳飲料:78.5%(牛乳類トータル:82.5%)

・販売単価は、牛乳:189.7円、成分調整牛乳:173.7円、加工乳:189.9円、乳飲料:149.9円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(5/30週)の販売個数は、牛乳:前年同期比93.9%、成分調整牛乳:同99.0%、加工乳:同96.1%、乳飲料:同93.6%。
牛乳類トータルでは同94.3%

【参考】2020年度比…牛乳:86.2%、成分調整牛乳:90.1%、加工乳:85.5%、乳飲料:82.1%(牛乳類トータル:85.8%)

・販売単価は、牛乳:190.0円、成分調整牛乳:173.4円、加工乳:191.0円、乳飲料:149.9円。

※出典 株式会社インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

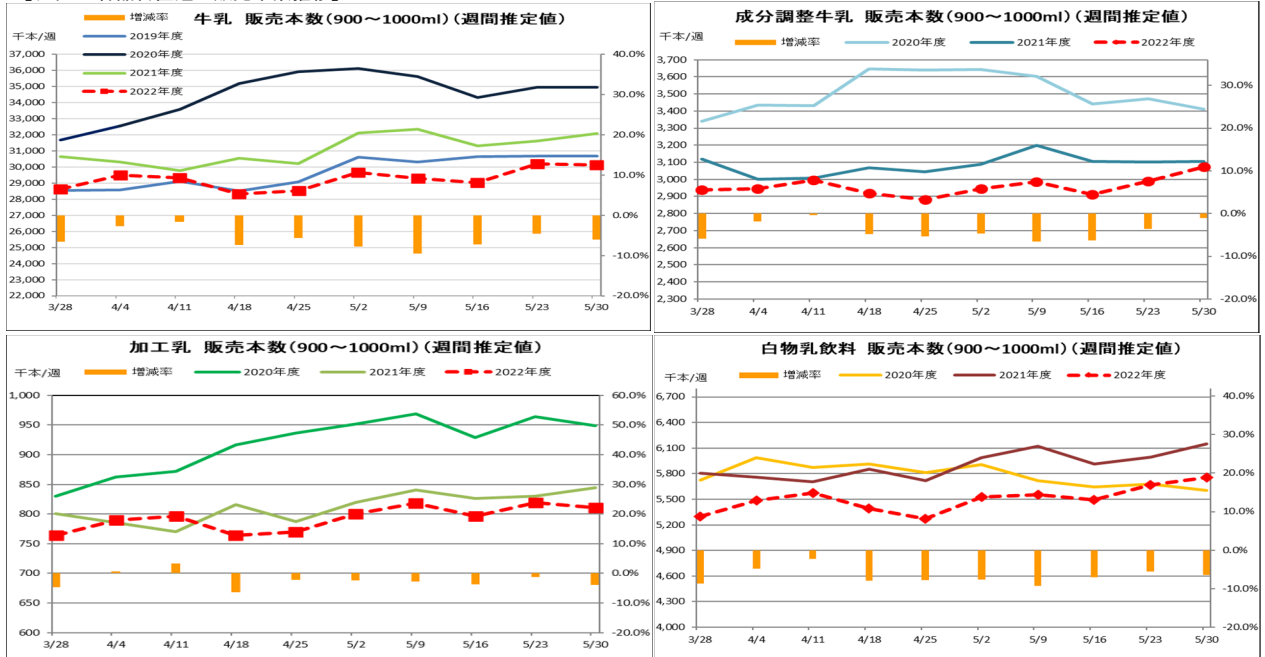
単位:千個、円

| 品目 | 区分 | 2021/12- | 2022/1- | 2022/2- | 2022/3- | 2022/4- | 2022/5- |
|--------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 5月分は速報値 | | | | | |
| トータル | 販売個数 | 164,941 | 162,926 | 151,428 | 164,151 | 163,794 | 172,087 |
| | 販売個数前年比 | 94.8 | 95.2 | 96.1 | 95.2 | 95.9 | 93.0 |
| 牛乳 | 販売単価 | 183.0 | 183.7 | 182.7 | 182.7 | 182.9 | 182.8 |
| | 販売個数 | 126,006 | 124,657 | 115,514 | 124,883 | 124,418 | 130,782 |
| 成分調整牛乳 | 販売個数前年比 | 95.7 | 96.1 | 97.1 | 95.4 | 96.0 | 92.7 |
| | 販売単価 | 189.7 | 190.5 | 189.4 | 189.5 | 189.9 | 189.7 |
| 加工乳 | 販売個数 | 12,509 | 12,237 | 11,599 | 12,596 | 12,656 | 13,149 |
| | 販売個数前年比 | 92.8 | 95.0 | 96.1 | 95.7 | 97.2 | 95.1 |
| 乳飲料 | 販売単価 | 172.8 | 173.6 | 173.4 | 173.6 | 173.3 | 173.7 |
| | 販売個数 | 3,301 | 3,211 | 3,023 | 3,334 | 3,355 | 3,566 |
| 牛乳 | 販売個数前年比 | 100.1 | 98.0 | 99.3 | 98.3 | 99.1 | 97.2 |
| | 販売単価 | 191.1 | 191.2 | 190.6 | 190.4 | 190.9 | 189.9 |
| 牛乳 | 販売個数 | 23,125 | 22,821 | 21,293 | 23,339 | 23,365 | 24,590 |
| | 販売個数前年比 | 90.6 | 90.4 | 90.6 | 93.3 | 94.3 | 92.6 |
| 牛乳 | 販売単価 | 150.9 | 150.5 | 150.3 | 150.1 | 150.0 | 149.9 |

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

| 品目 | 区分 | 4.11- | 4.18- | 4.25- | 5.2- | 5.9- | 5.16- | 5.23- | 5.30- |
|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 販売個数 | 38,688 | 37,403 | 37,448 | 38,928 | 38,641 | 38,248 | 39,667 |
| トータル | 販売個数前年比 | 98.5 | 92.8 | 94.1 | 92.6 | 90.9 | 92.9 | 95.5 | 94.3 |
| | 販売単価 | 182.9 | 182.9 | 183.1 | 183.2 | 182.6 | 182.7 | 182.8 | 183.0 |
| 牛乳 | 販売個数 | 29,325 | 28,330 | 28,523 | 29,657 | 29,285 | 29,046 | 30,192 | 30,127 |
| | 販売個数前年比 | 98.4 | 92.7 | 94.3 | 92.3 | 90.5 | 92.8 | 95.5 | 93.9 |
| 成分調整牛乳 | 販売単価 | 189.9 | 189.9 | 190.0 | 190.0 | 189.7 | 189.6 | 189.7 | 190.0 |
| | 販売個数 | 2,996 | 2,919 | 2,880 | 2,945 | 2,987 | 2,911 | 2,990 | 3,073 |
| 加工乳 | 販売個数前年比 | 99.6 | 95.1 | 94.6 | 95.4 | 93.4 | 93.7 | 96.4 | 99.0 |
| | 販売単価 | 173.4 | 173.4 | 173.2 | 173.9 | 173.3 | 174.0 | 174.1 | 173.4 |
| 牛乳 | 販売個数 | 796 | 764 | 770 | 800 | 818 | 796 | 819 | 811 |
| | 販売個数前年比 | 103.4 | 93.5 | 97.9 | 97.5 | 97.2 | 96.4 | 98.7 | 96.1 |
| 牛乳 | 販売単価 | 190.9 | 191.1 | 190.1 | 190.5 | 189.1 | 189.5 | 190.5 | 191.0 |
| | 販売個数 | 5,571 | 5,391 | 5,274 | 5,526 | 5,551 | 5,495 | 5,666 | 5,755 |
| 牛乳 | 販売個数前年比 | 97.7 | 92.1 | 92.3 | 92.3 | 90.7 | 92.9 | 94.5 | 93.6 |
| | 販売単価 | 149.9 | 149.7 | 150.2 | 150.5 | 149.4 | 149.6 | 150.0 | 149.9 |

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(5/30週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

一昨年比ではドリンクタイプは90%未満、個食タイプ90%以上、大容量90%以上となっている。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

| 品目 | 4.11- | 4.18- | 4.25- | 5.2- | 5.9- | 5.16- | 5.23- | 5.30- |
|---------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|
| ドリンクタイプ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 個食タイプ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 大容量タイプ | ↗ | ↗ | ↗ | ↓ | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |

- ↓ : 前年比90%未満
- ↗ : 前年比105%以上110%未満
- ↘ : 前年比90%以上100%未満
- ↑ : 前年比110%以上120%未満
- ↔ : 前年比100%以上105%未満
- ↕ : 前年比120%以上

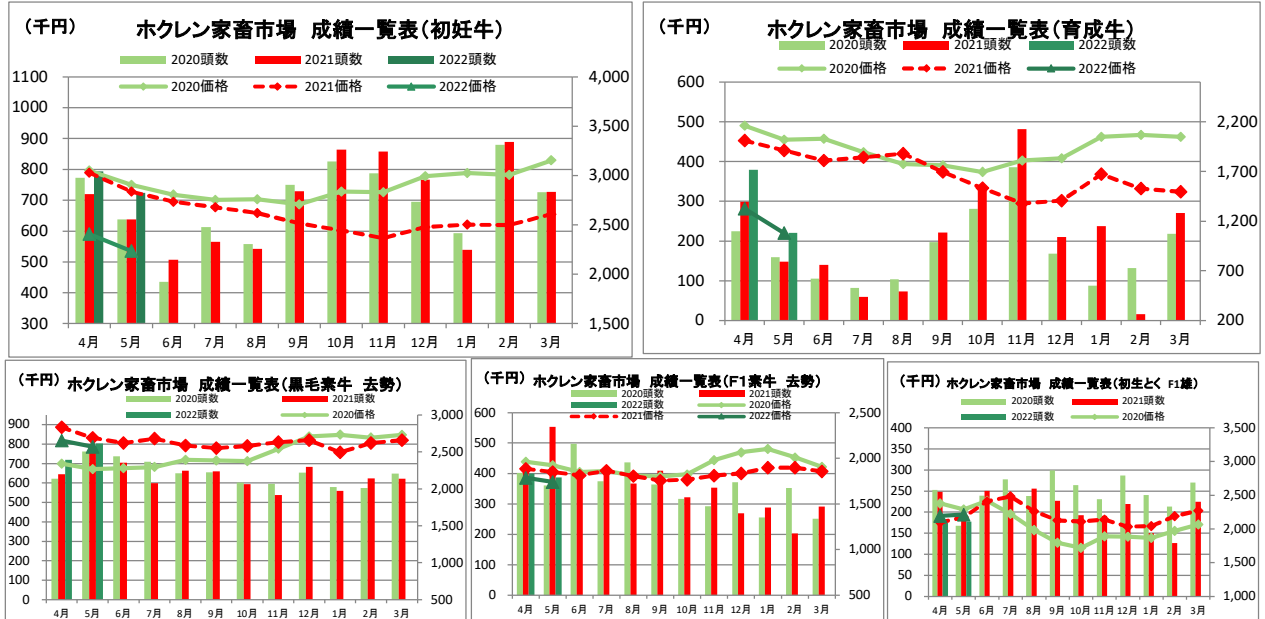
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)5月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は535千円(前年同期比73.5%)、育成牛価格は220千円(同51.4%)、和牛素牛(去勢)価格は786千円(同94.5%)、F1素牛(去勢)価格は372千円(同91.9%)、F1初生(雄)価格は194千円(同103.4%)。

(2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同110.6%、育成牛:同136.4%、和牛素牛(去勢):同102.4%、F1素牛(去勢):同76.2%、F1初生(雄):同94.9%。

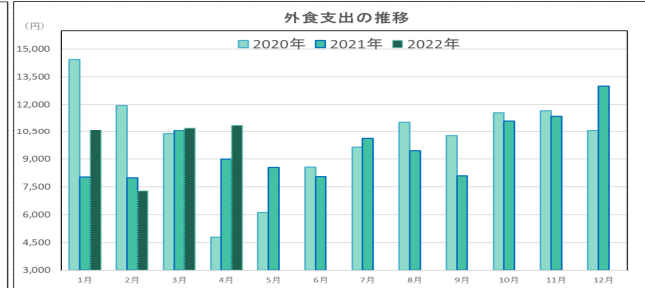
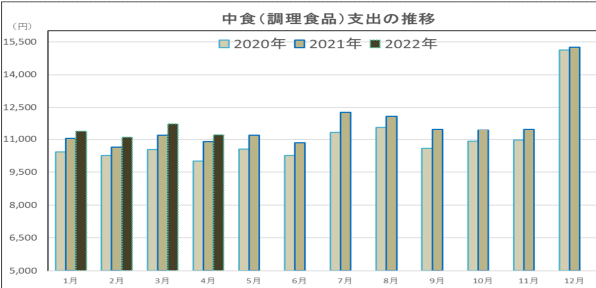
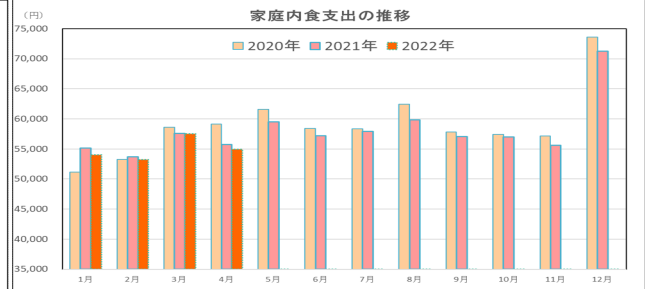
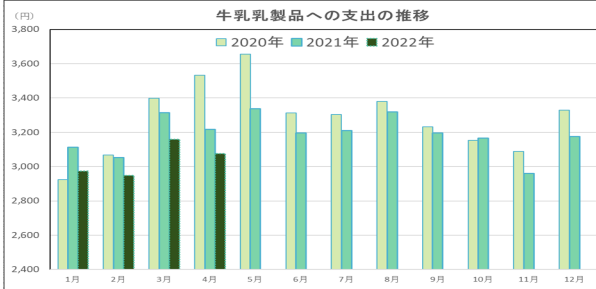
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



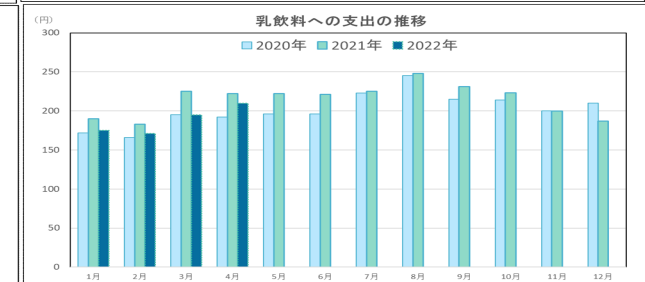
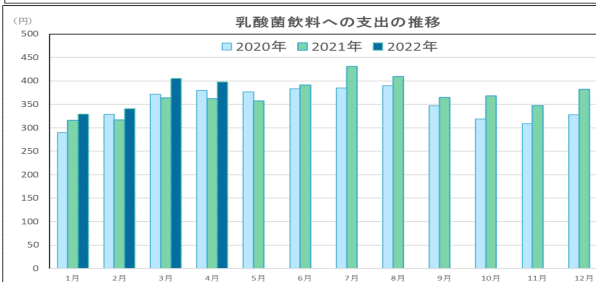
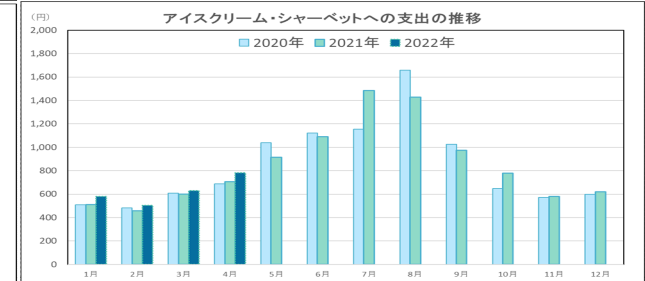
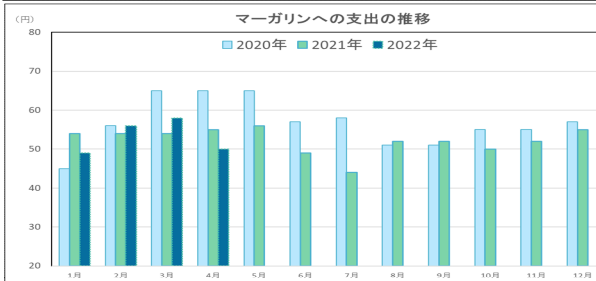
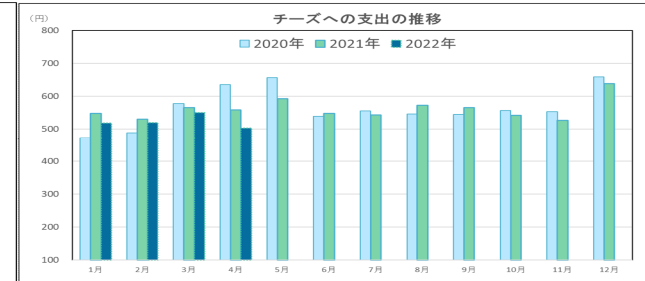
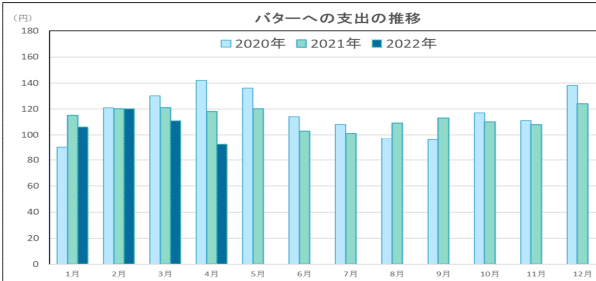
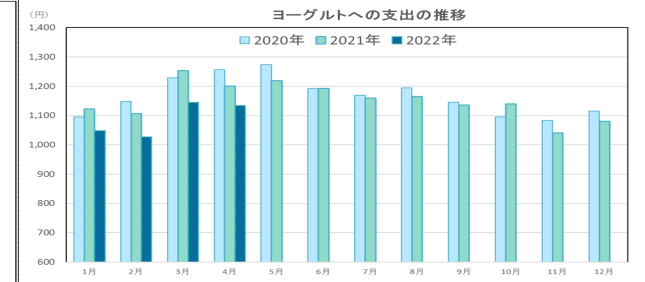
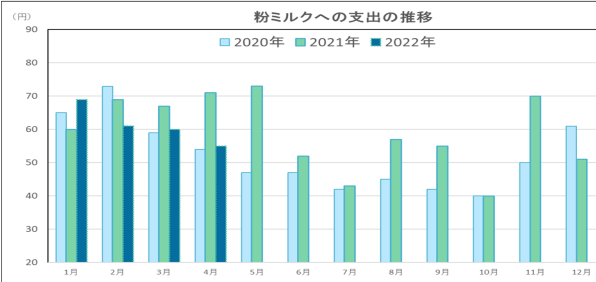
【家計支出の動向】※今月号よりその他品目を乳製品等に変更しております。

(1)4月の牛乳乳製品の支出額について、11月から6か月連続で前年を下回った。(前年比:95.6%)。

(2)内食は前年を下回り、外食、中食支出は前年を上回った。特に外食は前年比120.7%となっており、前年は4月下旬に緊急事態宣言が発出されたため、その反動が要因の一つと推察される。



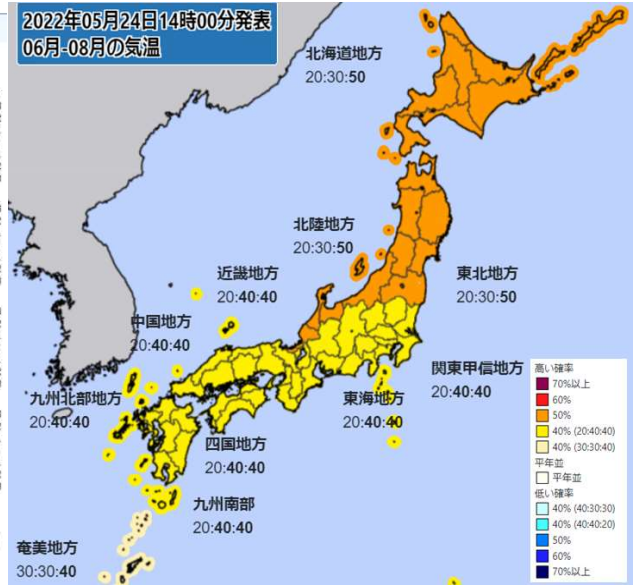
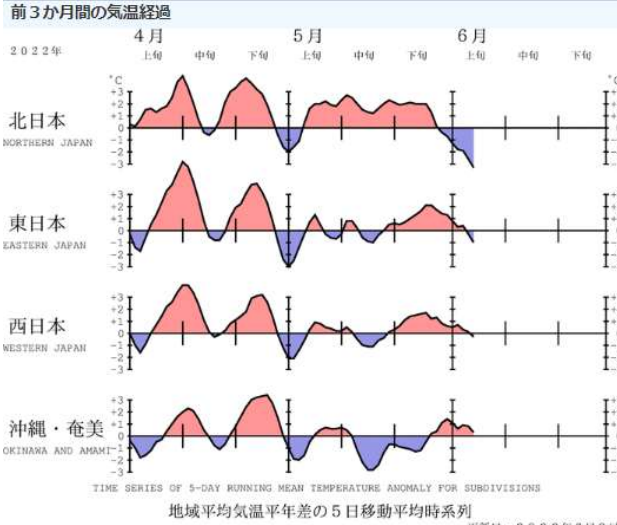
【参考:その他品目支出の動向】



【気温の動向】

(1)5月の気温変化について北海道は月間通じて平年よりも高い日が続き、都府県は下旬にかけて平年以上となった。
 (2)長期予報によると今年の夏(6-8月)の気温について、消費地となる関東以西の地域において平年より高くなる確率は40%以上となっている。
 ※出典:気象庁

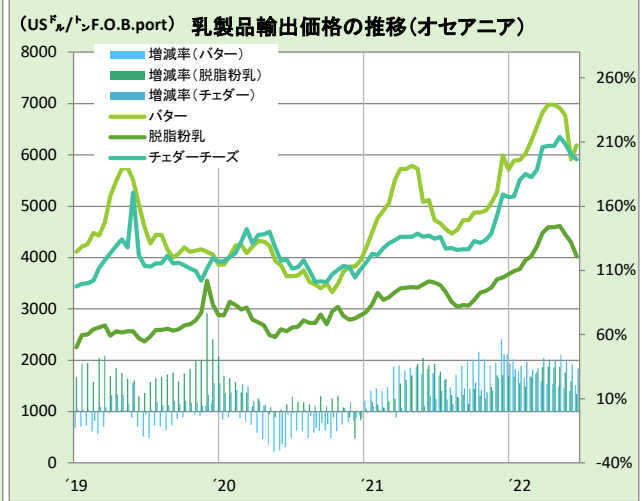
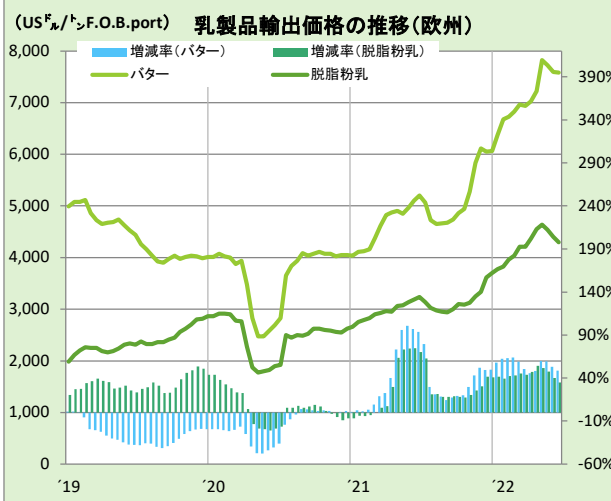
※参考資料



上図では、5日移動平均値(前後各2日を含む5日間の平均値)を平均期間の真ん中の日に表示しています。平年値は1991~2020年の30年間の観測値の平均をもとに算出しています。

【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近5月下旬の価格は欧州・オセアニアともに脱脂粉乳は4,000ドル/トンを超える水準、バターは欧州7,600ドル/トン程度、オセアニアは6,200ドル/トン程度、オセアニアのチェダーチーズは5,900ドル/トン程度となっている。



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」